

H25オープンハウス 展示パネル

盛岡地区かわまちづくり

北上川 エコロジカルネットワーク

平成26年2月19日

岩手河川国道事務所・盛岡市

盛岡地区かわまちづくり

●かわまちづくりとは、「**かわづくり**」と「**まちづくり**」が連携を図り、良好な空間をつくり、地域の活性化を目指す取り組みです。

かわまちづくりとは

<ソフト面>

イベント開催などによる地域づくり



<ハード面>

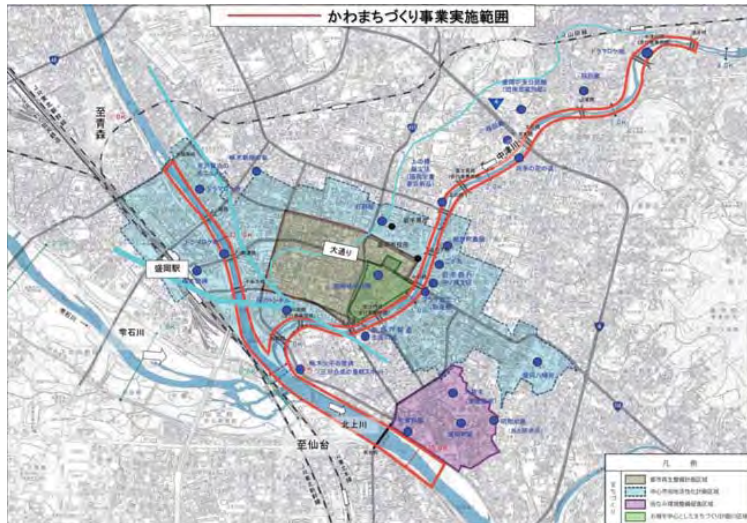
まちと一体となった水辺づくり



実施範囲

【かわまちづくり計画検討範囲】

- 中津川：浅岸橋～三川合流点
- 北上川：夕顔瀬橋～明治橋下流



かわまちづくりの目標像と基本方針

目標像 盛岡かわまちづくり計画

北上川・中津川と地域住民がともに育んだまちの歴史・文化や、生命の息吹を感じるかわの自然を大切に、地域住民の暮らしの中で、盛岡の魅力を広く知ってもらふ身近な交流の場、そんな「**かわ**」と「**まち**」と「**ひと**」とが共存し続ける水辺づくりを目指します。

基本方針

1. ひと・かわ・まちの連携の再構築



2. かわとまちの自然環境の保全・活用



3. かわとまちの歴史・景観資源の保全・活用



4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出



安全・安心なかわづくり・まちづくり

- 市民の安全な暮らしの確保
- 護岸等の適正な補修・維持管理の推進
- 防災情報の提供の充実・防災体制の強化
- 避難場所・避難経路の確保

盛岡かわまちづくり計画の進め方

●平成21年度より、懇談会やワークショップ、勉強会等を開催し、皆様の見をとりまとめて、かわまちづくりを進めています。

懇談会

市民団体や行政、大学等で構成され、かわまちづくりの取組みの協議や意見交換を行うものです。

ワークショップ

市民の皆様や活動団体を対象に、かわまちづくりの検討箇所を話し合い、提案をまとめるものです。

勉強会

市民と行政との協働、かわ・まち・ひとの連携について恒常的に対話する場です。

かわまちづくりの経過

平成21年度

第1～3回懇談会

- 盛岡地区かわまちづくり計画の立案「盛岡かわまちミュージアム」



懇談会の様子

平成22年度

第4回懇談会

- 勉強会の開催、アクセス整備
- 既設護岸への捨石・中州の撤去

中津川ワークショップ（年3回実施）

- 市民からの提案書の作成（上の橋～下の橋）

第5回懇談会

- 他事業との連携、アクセス整備
- 自然環境への配慮、護岸の維持・補修

北上川ワークショップ（年2回実施）

- 市民からの提案書の作成（三川合流点～明治橋下流）



懇談会の様子



ワークショップの様子

平成23年度

第6回懇談会

- 護岸（パラペット）の修景等について



その後の現地検討会の様子

第7回懇談会

- かわまち勉強会を推進
- 中州を撤去
- サインシステムを整備

中津川・北上川ワークショップ（年5回実施）

- 市民からの提案書の作成
中津川（浅岸橋～上の橋、下の橋～三川合流点）
北上川（夕顔瀬橋～三川合流点）

かわまち勉強会

- 活動状況の報告
- 各種活動の実践に向けた課題等について（意見交換）

平成24年度

第8回懇談会

- 事業の進捗状況の報告
- サイン整備計画案等について（意見交換）

かわまち勉強会

- 活動状況の報告
- 課題等の解決策について（意見交換）

平成25年度予定

第9回懇談会

かわまち勉強会

- 新山河岸の整備について
- エコロジカルネットワークの検討について

1. ひと・かわ・まちの連携の再構築

●かわまちづくりの実現にむけて、市民の皆様と連携・協力し、活動や情報を共有しています。

オープンハウス

●24時間テレビイベント・テレビ岩手・内丸大縁日の会場にて、パネル展示と、かわまちづくりに関するアンケート調査を実施しました。

平成22年
平成23年
平成24年
と実施しました！



ブース全体の様子(遠景)



オープンハウス実施状況



PRのためのパネル展示



皆様の意見をもらうためのアンケート調査

懇談会

平成23年度

●「盛岡かわまちづくり計画」の展開を図るため、平成23年度は、計5回のワークショップを開催し、市民からの提案書を作成しました。



施策の検討と特定



現地確認

平成24年度

●平成24年度は、勉強会1回、懇談会1回を開催しました。



意見交換の様子



現地視察の様子

2. かわとまちの自然環境の保全・活用

●かわまちの空間を、日々の憩いや癒しの場として、また貴重な自然空間として、保全・活用します。

整備の背景

<かわを学べる水辺空間づくり>

●中津川は全体的に流れが速く、水深が深いため、危険な箇所が多くなっています。



●川幅を広げ、安全な水辺の創出を進めていきます。

<砂州の管理>

●中州がサケの遡上を阻止している面もあります。



●中州の撤去を行い、自然環境の保全・向上を図ります。



整備の状況

○親水性の改善（毘沙門橋上流右岸）【整備前】



【整備後】



○中州の撤去（毘沙門橋～中の橋）【整備前】



【整備後】



3. かわとまちの歴史・景観の保全・活用

●古くからの地域の歴史・文化や自然景観と調和を図り、未来に継承していきます。

整備の背景

<かわ・まちの歴史を活かした水辺づくり>

●材木町には、歴史のある石垣が現存します。



材木町の石垣

●鉦屋町界隈では、街並み環境整備事業が進められています。



●盛岡の古い街並みと調和した川づくりを推進していきます。



鉦屋町の街並み

整備の状況

○自然石積護岸の整備【整備前】



【整備後】



○コンクリート護岸の補修・修景整備【整備前】



【整備後】



4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出 その1

●かわとまちとが連続した空間を創り出すことで、地域と観光との交流を図ります。

整備の背景

<水辺の遊歩道の整備>

●川沿いの市道には歩道がない箇所も多くなっています。



●優れた水辺空間を回遊する遊歩道の整備推進を図っていきます。

<まちとかわを結ぶアクセス整備>

●川の背後では、魅力あるまちづくりが進められています。



●かわとまちを結ぶ階段やスロープ等の整備推進を図っていきます。

整備の状況

○遊歩道の延伸整備（中津川）
【整備前】



【整備後】



○階段の新設整備（中津川）
【整備前】



【整備後】



4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出 その2

整備の状況

○管理用通路
【整備前】



【整備後】



○管理用坂路
【整備前】



【整備後】



○管理用坂路
【整備前】



【整備後】



○石積護岸
【整備前】



【整備後】



北上川 エコロジカルネットワーク

取り組みの目標



エコロジカル・ネットワークとは、貴重な自然を保全するとともに、細切れになった自然をつなぎ、生きものの移動経路を確保したり、自然の動きを回復させることによって、豊かな自然を再現しようとする取り組みです。



サケ 200km の旅を応援します！

1. にぎわいの再生

行政や市民団体・NPO等が一体となってサケの生息環境、産卵床の保全・創出に取り組み、かつての賑わいを取り戻します。



2. 鮭が遡上・産卵しやすい川に

- ・北上川で確認されている多くの魚類の遡上環境改善のため、魚がのぼりやすい川づくりに取り組みます。
- ・サケの産卵床をはじめとした動植物の多様な生育環境を保全・復元するため、礫河原の再生に取り組みます。



再生された
礫河原



魚道の改良と、
それをのぼるサケ

東日本大震災からの復旧・復興をめざして
エコロジカル・ネットワーク形成に向けた取り組みを、
復活・北上川のシンボルに・・・

北上川 エコロジカルネットワーク

取り組み①

魚がのぼりやすい川づくり



分流堰地区(魚道改良)

1. にぎわいの再生

サケをはじめ、北上川で確認されている多くの魚類の遡上環境改善のため、魚道の改良を行います。



(整備済み魚道の観察窓より)



整備済み魚道を遡上しているサケ

北上川 エコロジカルネットワーク

取り組み②

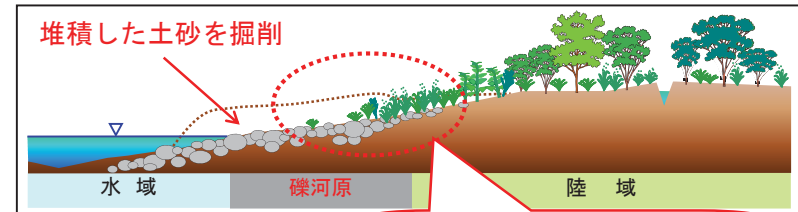


JR和賀川橋梁の付近を
北上川から和賀川の方をみたイメージ



礫河原の再生

砂州の掘削により、かつての礫河原を再生し、サケの産卵床をはじめとした動植物の多様な生育環境を復元する。



水際を切り下げることによって、レキ河原や湿地
植生の貴重種が生育できる環境が創出される

<事業前>



<事業後 (イメージ) >



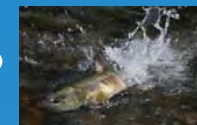
復元された礫河原

復元された礫河原で
行われている、地元
小学生やNPOによる
水生生物調査



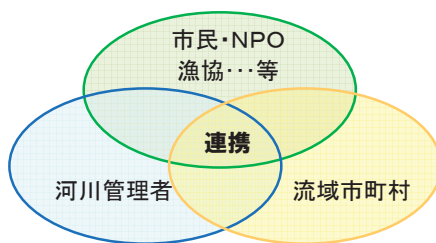
地域の活性化に活かす

北上川とサケ



サケ 200 kmの旅を応援

■地域との連携



■地域との連携

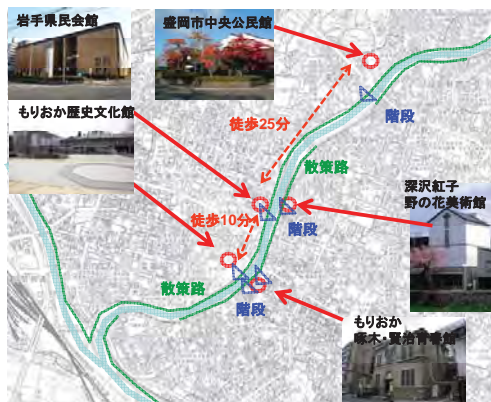
サケが遡上する北上川水系の環境を保全していくには、広い範囲の流域市町村、市民、NPO、漁協等との連携が不可欠です。これら関係機関との連携の仕方、また持続可能な取り組みの方法を検討しています。

■観光推進への活用

サケ 200km の旅を、北上川水系の大切な財産、地域の誇りとして、観光客に PR し、観光推進に活用する方策を展開します。

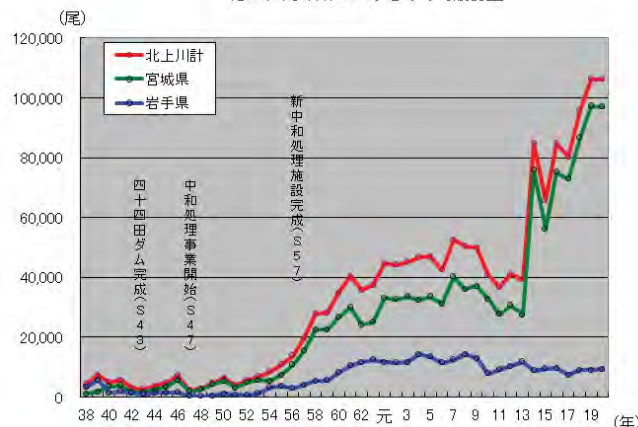


5館連携の取り組み -文化をつなぐ中津川のフットパス-



観光推進の展開

■復活したサケ 北上川水系におけるサケ捕獲量



かつて鉍毒水による水質悪化で「死の川」とまで呼ばれた北上川にサケが戻ってきました。こうしたかけがえのない環境を保全していくため、流域一体となった啓発活動に取り組みんでいきます。

■NPO・市民活動団体による取り組み

流域市町村やNPO、市民活動団体などは、すでにさまざまな取り組みを展開しています。



川あそびイベント 「どんと晴れ中津川」



川の石を掘り起こしての産卵床づくり



スーパーで飼育



サケの赤ちゃん放流会



スーパーで飼育